

自己実現に向けた支援

教職センター長 吉岡日三雄



教職センターを開設して4年目になりました。新年度を迎え、日常的な相談や指導を受けに来室する学生、公立保育士や小学校をはじめ、各校種の教員を目指して採用試験対策講座を受講しに来室する学生など、大勢の学生がセンターを利用しています。そんな学生たちの思いや願いをかなえるセンターとしてなお一層、きめ細かく丁寧なサポートをしていかなければならないと、決意を新たにしています。

日々、学生たちと接していると、入学以来、「保育士や教師になる」という信念をもって意欲的に学んでいる学生もいれば、学年が上がるにつれ、「保育士や教師になること」への不安や悩みを抱え、途中でやめてしまう学生もいます。「なりたい」という気持ちをどう持続させ、どう学ばせていくかが、教職課程や保育課程を学ぶ学生への指導上の課題の一つになってきています。

働き方改革が言われる中で保育職や教職についても大きく取り上げられていますが、私が小学校で勤務していたときを振り返っても、朝早くから夜遅くまで、学校で過ごしていました。毎日の授業準備をはじめ、様々な事務作業がありました。また、子ども同士のトラブルの解消、保護者対応などもあり、忙しい日々を過ごしていました。家に成績物を持ち帰り、丸付けをしていたことも度々ありました。それでも、学校がいやになったことはありませんでした。それは私自身、学校が好きで、教育を通して子どもたちの成長を見られることが私の大きな心の支えだったからです。何年たっても未熟な教師でしたが、子どもたちと笑ったり、喜んだり、泣いたり、時には叱ったりしながらでも一緒に過ごす時間は教師としてのやりがいがあり、居場所がありました。

教師という仕事の魅力、やりがいの基盤には、「どうして教師になりたかったのか」「どんな教師をめざし、どう子どもとかかわり、どんな子どもに育てたいと思ったのか」、教師になろうと思ったときの初心を持ち続けることが根底にあると思っています。教職センターには、経験豊かな元保育園の園長先生や小・中学校の元校長先生たちがいます。学生たちが「なりたい自分」に向かってあきらめずに、挑戦し続けられるように「保育士や教師の魅力」や「やりがい」を今後も発信していく必要があると感じています。

本年度から特別支援学校の教員免許や小中学校の複数免許も取得できるようになりました。学生たちの多様な要望に対応し、学生たち一人ひとりが目指す自己実現に向け、全力で支援にあたっていきます。本年度も教職センターへのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

教育委員会による学内説明会(教員採用試験等・教師塾)



4月中旬から5月中旬にかけて、神奈川県(4/16)、川崎市(4/18)、相模原市(4/23)、横浜市(5/9)の4つの教育委員会による教員採用試験説明会を開催しました。また、神奈川県(4/17)相模原市(4/24)、横浜市(5/10)の教師塾の説明会も行いました。ほとんどの自治体で昨年度の春学期の参加者数を上回り、中には準備した資料が不足する自治体もでたほどでした。参加者数は延べ233名で、特に入学間もない1年生の参加が目立ちました。早いうちから情報を収集し、自分の将来を見据えて行動できることは、教師の資質の一つである自主性や計画性の表れでもあります。得た情報を自分のものにして、これからの学びや進路選択に活かしてほしいと思います。

講座紹介① 個人面接講座(小学校教諭志望)

教員採用試験は自治体ごとに、筆記、論作文、面接、模擬授業、場面指導など様々な内容が組み合わされて実施されています。その中でも、個人面接の得点が占めるウェイトは高く、そのための演習は欠かせません。特に小学校教諭を志望する学生は毎年15名から20名ほどおり、教職センターでは開設した年度から複数の教員が指導しています。

現在、教職センターではセンター長を含め3名の小学校担当教員がおり、3~5名のグループを編成し、それぞれの教員が一人の学生に週1回指導をしています。すなわち学生の立場からすると、週に3回の面接練習があり、それが約15週間に渡って続けられます。最初は紙に書いて読んで話していた学生も、回を重ねるごとに自分の言葉で自分の考えや思いを語れるようになります。また、そうでなければ試験には合格しません。

但し、毎回同じ事を行うのではなく、それぞれの教員が学生の力量や熱意等に合わせてプログラムを組んでいます。センター専任教諭の大里が担当している講座では、まず面接試験の傾向と対策を知ることが目的に、昨年度や一昨年度に教員採用試験を受けた先輩が残してくれた本番の面接試験で出された質問を分析し、マトリックスに表す学習からスタートしています。

「こんなことも聞かれるんだ。」「どんどん突っ込まれている感じがする。」「こんな質問が出たらどうしよう。」など、面接の難しさや特徴も感じる中で、「頑張ろう」という思いを持たせるようにしています。講座が始まって1ヶ月たち、教員の志望理由、理想の教師像、自治体の受験理由等、出題率の高い質問を繰り返し学んでいるところです。

